

基準地震動について

質問事項7

地震動評価において、審査書案は、断層モデルについては、「強震動予測手法（レシピ）よりも保守的な震源特性パラメータを設定し…評価している」（P18）とある。九電は入倉レシピよりも地震モーメントを約2倍とした評価を行い、基準地震動を設定している。しかし入倉レシピは、世界的な地震の平均像を求める手法であり、そこで用いられている経験式（入倉・三宅式）では日本の地震の特性が考慮されていない。日本の地震の特性に基づく経験式（武村式）を用いた場合、入倉レシピの4倍程度の地震規模になる。川内原発の基準地震動は、少なくとも現状のさらに約2倍の規模のものを想定しなければならないと考えるがいかがか。

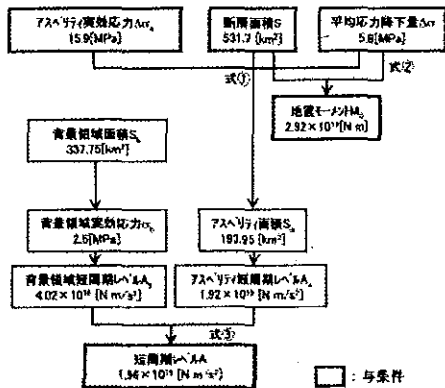
上図：九電：適合性審査会合提出資料より

下図：美浜の会作成資料より

川内原子力発電所 検討用地震の断層パラメータ設定

■ 1997年鹿児島県北西部地震の観測記録を用いた川内原子力発電所周辺の地域性の検討から得られたパラメータ（平均応力降下量 $\Delta\sigma$ 、アスペリティの実効応力 $\Delta\sigma_a$ ）を指定値とし、それに基づき地震動評価結果（地震動レベル）を支配するパラメータ（短周期領域：短周期レベルA、長周期領域：地震モーメント $M_0$ ）を算出。  
 ■ このパラメータ設定は、強震動予測レシピ<sup>29)</sup>に基づいた設定よりも保守的となることから、この設定を採用すると判断。

「断層帯断層区間」による地震の例



強震動予測レシピ<sup>29)</sup>に基づく断層パラメータ設定

■ 地震動評価結果（地震動レベル）を支配するパラメータ（短周期領域：短周期レベルA、長周期領域：地震モーメント $M_0$ ）を設定し、その結果（地震動レベル）を導くための特性化震源モデルのパラメータを順次設定。

「断層帯断層区間」による地震の例

